

西諸県地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年8月 西諸県農林振興局
（西諸県農業改良普及センター）

目次

- I 管内農業・農村の主な動き (P2)
 - (1) 8月期子牛郡品評会が開催
 - (2) 西諸県地区営農振興協議会特用作部会が開催
 - (3) 普通期水稻生育調査を実施
- II 主な普及指導活動等の取組み
 - 1 地域プランに基づく普及活動 (P3~4)
 - (耕畜連携が育むしなやかで強い畜産産地づくり)
 - (1) セリ前講習会を実施
 - (加工・業務用野菜を核とした力強い畑作産地づくり)
 - (2) 栽培や経営収支の記帳・記録に関する研修会を開催
 - (3) 散水器具実演会を開催
 - (4) ほうれんそう栽培講習会を開催
 - (先進技術の導入等による高品質・高収益な園芸産地づくり)
 - (5) 令和8年度西諸県農業者セミナーを開講
 - (6) ぶどう・梨品評会を実施
 - (7) 小林市果樹農業振興推進対策協議会・JA梨ぶどう生産部会合同役員会を開催
 - (気候変動に対応した持続性の高い水田農業の確立)
 - (8) ひなた舞展示ほ支援を実施
 - 2 地域課題一覧に関する普及活動 (P5~7)
 - (1) 中小企業診断士協会農業研究会と連携した経営支援を実施
 - (2) 就農相談会を実施
 - (3) 経営開始資金受給者の就農状況の確認
 - (4) JAえびの市いちご部会定期総会が開催
 - (5) JAこばやしメロン部会定期総会が開催
 - (6) 小林市須木果樹振興協議会の視察研修が開催
 - (7) JAえびの市くり部会総会の開催
 - (8) JAえびの市くり部会出荷目揃え会の開催
 - (9) 高原町花卉部会視察研修が開催
 - (10) ラナンキュラス栽培講習会を開催
 - (11) 小林市鉢物生産組合の視察研修が開催

I 管内農業・農村の主な動き

(1) 8月期子牛郡品評会が開催

12日に、小林地域家畜市場において、JAみやざき西諸県家畜市場運営部主催による令和8年8月期子牛郡品評会が開催されました。

21日から23日に開催される8月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た22頭が出品され、審査の結果、優等賞に3頭、壺等賞に10頭、式等賞に9頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は高原町の入佐久男さん出品の「こうめい」号（父：孔明桜）、2席は小林市野尻町の株式会社濱崎畜産出品の「あいり」号（父：白隆鵬）、3席は小林市の立山健二さん出品の「ひかる1534」号（父：白隆鵬）が受賞されました。受賞牛は、発育良好、体積豊か、均称に優れ、雌牛らしい品位が秀でていたとの講評でした。



【優等賞首席「こうめい」号】

(2) 西諸県地区営農振興協議会特用作部会が開催

31日、普及センターにおいて特用作部会が開催されました。

会議では、現在の茶の生育状況が報告されたほか、専門技術センターから茶の販売情勢を含めた説明が行われました。販売環境が好調な中、将来的に持続可能な産地を目指すためには、消費者や実需者のニーズを的確に捉えながら、高品質化を図り、付加価値向上を目指すことの重要性を改めて確認しました。

また、会議終了後は、高原町の有機茶園の巡回を行い、生育状況の確認や有機栽培における病虫害対策の課題について専門技術センターとともに検討しました。



【茶園巡回の様子】

(3) 普通期水稻生育調査を実施

6日に、関係機関からなる西諸県地区普通作物技術員会で、管内の普通期水稻の生育調査を実施しました。今回は、幼穂形成期の草丈・茎数・葉色・幼穂長・病虫害の発生状況の5項目について調査しました。

今年の普通期水稻は、梅雨の影響で、初期生育がやや遅れたものの、7月以降は平均気温が高い日が続いたことから出穂最盛期はほぼ平年並みの8月21日となりました。また、草丈は平年並みで、茎数は平年よりやや少ないものの概ね順調な生育となっています。

病虫害の発生に関しては、一部のほ場で葉いもちや紋枯病の発生が確認されたものの全体的には発生が比較的少ない傾向となっています。

次回は9月中旬に成熟期調査を行い、収穫前の生育状況を確認する予定です。

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組み

1 地域プランに基づく普及活動

(耕畜連携が育むしなやかで強い畜産産地づくり)

(1) セリ前講習会を実施

21日から23日に、小林地域家畜市場において、子牛セリ市開始前に講習会を行いました。普及センターから「子牛生産費について」を、都城家畜保健衛生所から「ランピースキン病」をテーマに講習会を行い、延べ170名程度の参加がありました。

参加者からは、吸血昆虫対策の資材について質問があり、家畜防疫について見直すきっかけになりました。

今後も継続して、基本的技術の紹介を行っていきます。



【講習会を聞く農業者】

(加工・業務用野菜を核とした力強い畑作産地づくり)

(2) 栽培や経営収支の記帳・記録に関する研修会を開催

7日、日々の作業記録用紙からデータ入力し、経営分析や栽培改善に活かすことを目的に、研修会を開催しました。講師は、管内の先進的な事例をもつ農業法人の代表者になっていただき、生産者および農業法人3社（5名）を対象に、事例紹介とパソコンを用いた演習を行いました。

今後は、この研修内容をベースに、個別に記帳を行っていくための継続的な支援を行っていきます。



【演習の要領を説明】

(3) 散水器具実演会を開催

10日、小林市南西方環野地区のブロッコリー圃場にて、散水器具実演会を開催しました。

当日は、大型スプリンクラー、中型スプリンクラー、ロールカー、チューブの4種を展示し、関係機関職員と生産者にそれぞれの散水状況の違いを見てもらいました。当実演会場のブロッコリー生産者からは「干ばつが続けば今後も散水をしたい」と好印象の声が聞かれました。他にも散水器具の導入を検討する生産者もいました。

今後も気象条件やほ場の状況に応じた散水器具の導入・活用を支援していきます。



【スプリンクラーの散水状況】

(4) ほうれんそう栽培講習会を開催

28日、加工用ほうれんそうの品質と収量向上のため、JAみやざきこばやし地区三ヶ野山出張所会議室で講習会が開催され、生産者12名が参加しました。

普及センターから栽培暦に沿った基礎知識を説明したほか、高温や湛水条件での発芽状況、黄化症状の発生条件について解説しました。また、出荷先である新サンフード、JAみやざき本店からも出席があり、9月25日から始まる栽培に向けた注意点（雑草・病害虫対策、異物混入、残留農薬対策等）について説明が行われました。

生産者からは、9月下旬からの播種期における天候不順を心配する声も聞かれますが、実需者が求める収穫時期を目指し、本格的なほうれんそう栽培が始まります。



【普及Cより暦の説明】

(先進技術の導入等による高品質・高収益な園芸産地づくり)

(5) 令和8年度西諸県農業者セミナーを開講

普及センターで令和8年度西諸県農業者セミナー（アグリ★ベーシックセミナー、ステップアップセミナー）を開催しました。セミナーは、3日から28日まで、計5回実施し、延23名の新規就農者等が参加しました。

内容はベーシックセミナー第5回目が「農業経営管理の基礎知識を学ぶ」、第6回目が「病虫害防除の基礎」について、ステップアップセミナー第1回目が「植物生理」、第2回目が「雇用確保・労務管理」について、第3回目が「JA出荷の仕組み、個別販売、販路拡大」についてそれぞれサテライト形式で実施し、講師は専門技術センター、社会保険労務士、JAみやざきなどが務めました。

参加者は、集中して研修に参加する様子が見受けられました。



【セミナーで真剣に講義を聞く受講者】

(6) ぶどう・梨品評会を実施

24日、西諸県普及センターにおいて、小林市果樹農業振興推進対策協議会およびJAこばやし梨ぶどう生産部会合同による「梨ぶどう品評会」が開催されました。生産者と関係機関あわせて37名が参加し、ぶどう（ニューピオーネ、シャインマスカット等）と梨（豊水）の計31点が出品されました。

昨年は11点しか出品されませんでしたでしたが、今期は出品数向上を狙い、新たに「その他の品種」枠を設けました。その結果、マスカダーティーン等の希少品種が審査員の注目を集めました。また、児湯地域からも5名の生産者が参加し、産地間交流が図られるなど活気ある品評会となりました。

審査後には出品物の即売会も行われ、シャインマスカットが1房2,400円で取引されるなど、地域果樹の品質を再認識する貴重な機会となりました。



【審査風景】

(7) 小林市果樹農業振興推進対策協議会・JA梨ぶどう生産部会合同役員会を開催

24日、西諸県普及センターにおいて標記役員会が開催され、関係者10名が参加しました。

会合では、前段で行われた「梨ぶどう品評会」の反省と、来月17日に開催予定の「梨品評会（新高・新興）」の計画が協議されました。今年の梨は、果実肥大期に降水量が少なかったため、出品基準の見直しについて検討しました。また、普及センターから、ぶどう・梨品評会の開催場所を日中の市役所等へ移し、市民へのPRを強化する案を提示したところ、会員から前向きな反応が得られました。

気象条件による品質への影響が懸念される中、審査基準の見直しや展示方法の工夫を通じて、産地の活性化と新たな栽培意欲の喚起を図る方針が示されました。

(気候変動に対応した持続性の高い水田農業の確立)

(8) ひなた舞展示ほ支援を実施

8月下旬以降、普通期水稻新品種「ひなた舞」の出穂が始まったことから、2箇所の展示ほにおいて生育調査を実施しました。

調査結果では、一部でカメムシ類の発生が見られたものの、全体的に病虫害の発生は少なく、概ね順調な生育となっています。また、高品質米生産のために、水管理を中心とした指導・助言を行いました。



【出穂期のひなた舞】

2 地域課題一覧に関する普及活動

(1) 中小企業診断士協会農業研究会と連携した経営支援を実施

26日、中小企業診断士協会農業経営研究会と管内法人に対し、経営支援を実施しました。

本支援は、経営診断に優れた中小企業診断士と普及センターの経営・技術担当者が連携し、経営者を多角的にサポートすることを目的としています。

当日は現地確認後、普及センターが事前に調査した経営概況を基に、詳細なヒアリングや事業承継に関する情報提供が行われました。

経営主の事前準備と熱心な対応によりヒアリングは大変充実し、内容への理解も十分に深めていただけた様子でした。

今回は、この聞き取り結果を基に、経営改善や円滑な事業承継に向けた具体的な提案を行う予定です。



【中小企業診断士現地調査の様子】

(2) 就農相談会を実施

肉用牛繁殖経営で就農を希望する5名（小林市3名、えびの市1名、高原町1名）の就農相談会を開催しました。

相談者のうち、2名は初回の就農相談で、計画の概要の確認や就農までのスケジュール感の共有を行いました。今後も引き続き、就農希望者の各相談段階や条件にあった相談に対応し、関係機関と連携しながら就農計画の策定支援を行っていく予定です。

※就農相談対応 5名8回（内訳：小林市：肉用牛繁殖3名、えびの市：肉用牛繁殖1名、高原町：肉用牛繁殖1名）

(3) 経営開始資金受給者の就農状況の確認

26日、31日、えびの市で経営開始資金等を受給する新規就農者に対して、就農状況の確認を行う面談を行いました。

面談では、認定計画に対しての前年度までの生産量や売上高の進捗の確認を行い、現在把握している経営課題や対応策の確認を行いました。

計画の進捗が思わしくなかった就農者に対しては、今後、関係機関と連携し、認定計画の達成に向けて重点的なフォローアップ支援等を検討していく予定です。

（内訳 えびの市：いちご2名）



【就農状況の現地確認】

(4) JAえびの市いちご部会定期総会が開催

18日、JAえびの市本店にて、第41回JAえびの市いちご部会定期総会が開催され、普及センターからは3名が来賓として参加しました。

総会では第1～4号議案全てが可決されました。総会冒頭の部会長挨拶では、高温による花芽分化の遅れや収量が減少傾向にあることについてお話がありました。

9月の定植に向けて、苗管理や花芽分化誘導などの指導を行っていきます。



【部会長あいさつ】

(5) JAこばやしメロン部会定期総会が開催

20日に、小林市内にて、第12回JAこばやしメロン部会定期総会が開催され、普及センターから1名が来賓として参加しました。

議事では第1～3号議案が全て可決されました。普及センターからの来賓祝辞では、今年度メロン部会で実証する根域制限栽培について改めて説明を行い、実証を行う目的や必要性、今後引き続きの協力依頼をしました。

昨今の異常気象の中で栽培が難しくなっていますが、それに対応するために根域制限栽培の技術確立に向けて関係機関、生産者と連携していきます。



【表彰を受ける生産者】

(6) 小林市須木果樹振興協議会の視察研修が開催

19日、小林市の須木果樹振興協議会の部会員ら17名が、えびの市の栗園地および鹿児島県曾於市のゆず関連施設を視察しました。

えびの市では、評価点制度の導入とJAによる苗木助成を背景に、部会員数と面積を拡大させている先進的な組織運営を学びました。また、曾於市では第三セクターが運営するゆず搾汁工場「メセナ食彩センター」を訪れ、ISO22000取得による輸出展開や、33名の生産者を支える作業班体制、低樹高化やトゲ除去などの徹底した栽培管理技術を確認しました。

隣接産地の成功事例や具体的な栽培管理（トゲ除去による作業性向上など）を目の当たりにしたことで、生産者の意欲向上と自産地の課題解決に向けた大きな刺激となりました。



【ゆず園地での視察のようす】

(7) JAえびの市くり部会総会の開催

3日、JAえびのにおいて「JAみやざきえびの市地区本部栗部会総会および役員会」が開催されました。

部会員約60名が参加し、前年度の販売額が4,159万円（平均単価694円）と好調であったことや、管内で唯一、会員数と面積が増加している品目であることが報告されました。総会では、来年度に宮崎県で開催される「全国クリ研究大会」を見据え、現役員の続投と大会経費のための内部留保が承認されました。

総会後に開催された役員会ではドローン防除の結果が報告され、省力化への評価が得られた一方、コスト低減や対象農薬拡大への要望も出されており、今後は全国大会の成功と生産体制の強化に向けた支援が重要となります。



【総会のようす】

(8) JAえびの市くり部会出荷目揃え会の開催

17日、JAえびの市くり出荷場において栗部会の出荷目揃え会が開催され、部会員ら約75名が参加しました。

令和6年に県と市の補助で整備された最新選果機の活用と、出荷ルール徹底が呼びかけられました。

菓子業界の情勢は不透明ながらも、前年の出荷品質が極めて良好であったことが評価され、取引先より単価引き上げが提示されました。えびの市ではくりの栽培面積が増加していることから、台風等の自然災害がなければ前年を上回る出荷量が見込まれています。

部会員は、この目揃え会で学んだ厳格な選別を行うことで、所得の向上を目指します。



【目揃え会のようす】

(9) 高原町花卉部会視察研修が開催

27日に、高原町花卉部会の生産者6名が総合農業試験場花き部を訪れ、キクの栽培技術に関する視察研修を実施しました。

研修では、発根が弱い品種「精の一世」でのバイオスティミュラント資材の活用試験や、細霧冷房と外気導入（プッシュエア）を組み合わせた高温対策の実証圃を見学しました。

参加した生産者からは、資材の費用対効果や遮光資材の遮光率について積極的な質問が相次ぎました。特に近年の酷暑対策への関心が高く、試験場での最新知見と管内での展示ほ結果を共有することで、次期作の品質安定と収益向上に向けた技術導入が期待されます。



【視察研修のようす】

(10) ラナンキュラス栽培講習会を開催

19日に、普及センターで開催し、生産者7名、関係機関4名が参加しました。

栽培開始前のこの時期に例年実施している講習会ですが、普及センターから土づくりや球根冷蔵、定植前後の注意点を説明しました。特に今回は、球根消毒の徹底と芽出しや順化の実施について、重点的に説明しました。

これから、ほ場準備や球根冷蔵が本格化します。安定した収量と品質を目指して、支援していきます。

(11) 小林市鉢物生産組合の視察研修が開催

26日から27日に、生産者3名と関係機関2名が参加して、鹿児島県内の鉢物生産者や花き市場、生花店を視察しました。

生花店や市場の視察では、出荷する生産者の減少などの厳しい現状を知りました。一方で、シクラメン等を生産する生産者は、市場出荷だけでなく、直接販売にも力を入れており、高品質の鉢花をしっかりと販売していることを学びました。

生産技術だけでなく販売面まで学ぶことができた視察になりました。



【栽培について意見交換】